＜産地レポート＞

長野県における被覆窒素肥料の普及について

ジェイカムアグリ（株）「農業と科学」編集部

1．長野県の農業概況について

長野県は面積が広く，東西南北で気候風土が異なっている。耕地面積は約11万haの耕地面積（田約5.5万ha，畑約5.5ha）で，さまざまな標高に応じた農業が営まれている。農家戸数は11万7千戸余りで全国一位である（平成22年）。農産物としては，水稲をはじめ，野菜，果樹，花，きのこ等，収穫量が全国有数の品目が多い。

水稲は，10a当り収量が632kg，一等米比率が96%で，共に全国一位である（全国平均＝収量539kg，一等米比率79.6%：平成25年度）。野菜の収穫量では，レタス，セルリー，パセリ，加工用トマト，水わさびが全国一位，はくさい，アスパラガスが全国第二位である。

2．全農長野県本部の生産資材の取組み

全農長野県本部では，県内の地域ごとに異なった気候や土壌，作物に適合したBB肥料の開発，普及をしている（年間約1万点の土壌分析を実施し，そのデータを基に適正施肥，新銘柄開発，普及を推進）。農薬に関しては，適正防除指導等を通じて，安全・安心で持続性の高い農作物づくりに貢献している。合わせて，生産資材価格の低減や省力化に取り組んでいる。また，農業資材，園芸用品専門店「JAファーム」の開発・運営支援も実施している。

3．BB肥料について

昭和53年に設立されたBB肥料工場（現㈱JAアグリエール長野）において，昭和55年には野菜用肥料として，硝安入りのN552，N262などが新銘柄化された。その後，施肥省力化を目的として，被覆窒素肥料「LPコート®」を配合した新銘柄が水稲，野菜を中心に逐次開発されてきた。

4．被覆窒素肥料の普及と現在の取組み

現在，LPコート入りのBB肥料として，水稲では「水稲ワンタッチS100」，加工用トマトでは「ジュース用トマト一発肥料」など，水稲，麦，葉物野菜用の全量基肥用肥料が県域，JAオリジナル肥料として銘柄化されている（写真参照）。

LPコート入りのBB肥料

前述のとおり，長野県では異なる気候，土壌，作物，作型などに対応した（＝LPコートのタイプや配合割合を変更）JAオリジナル肥料が普及しており，現在の取組みとしては，水稲における高温耐性新品種「風さやか」（長野県育成品種）に適したLPコート入りの水稲基肥一発肥料の開発に向け試験中である。

最後に，本情報を提供いただいた全農長野県本部生産資材課に御礼申し上げる。